

UEFA 欧州選手権 2012 における得点パターンの分析

—日本代表との比較から—

An analysis of the goals of UEFA EURO2012: Comparing with Japan national team

1K09B161

指導教員 主査 作野 誠一 先生

長谷川 洗人

副査 堀野 博幸 先生

【目的】

2012 年、世界最高峰のサッカーレベルと言われるヨーロッパの最強国を決める大会 UEFA 欧州選手権 2012(以下 EURO2012)が開催された。今大会はウクライナとポーランドによる共同開催で、2010FIFA ワールドカップを制したスペインが優勝した。大会二連覇は史上初となる。そこで最高峰のレベルでありかつ最新の大会である EURO2012 で行われた全 31 試合から生まれた 76 得点を抽出して分析を行い、トップレベルのサッカーの傾向・動向を把握し、考察を交えて今後のサッカー界のついて展望したい。世界最高峰のレベルと言われるヨーロッパサッカーの実情、得点パターンを分析することで 現在のトップレベルのサッカーの現状を把握することができると考えた。

また、2012 年は日本代表にとっても重要な 2014 年ワールドカップアジア最終予選が行われている年でもある。そこで最新の日本代表の得点パターンと EURO の得点パターンを比較し、ヨーロッパサッカーと日本サッカーの相違点を浮き彫りするとともに今後日本代表がどのような方策をもって世界各国と戦うべきかを考察する。

【方法】

EURO2012 は 2012 年 6 月 8 日から 7 月 1 日の約 1 カ月間開催された。スカパーや民放で放送された全 31 試合を録画し、その中から生まれた全 76 得点を対象とした。

また、日本の試合は、2011 年から 2012 年の中で公式戦を対象とした。2011 年には 2011AFC アジアカップ (以下アジアカップ)、2014 年 FIFA ブラジルワールドカップアジア地区 3 次予選 (以下 3 次予選) が開催された。2012 年には 2014 年 FIFA ブラジルワールドカップアジア地区最終予選 (以下最終予選) が開催された。

ここからアジアカップで生まれた日本の全得点の 14 得点、3 次予選で生まれた日本の全得点の 14 得点、最終予選で生まれた日本の全得点の 13 得点、それらを合計した 41 得点を研究の対象とした。EURO2012 の全得点、日本代表の対象得点に対して以下の分析項目を設定した。1・得点の時間帯、2・得点者のタッチ数、3・得点までに要した時間、4・得点の内訳、5・シュートの位置、6・得点までのパス数、7・得点に至った攻撃パターンである。得点に至った攻撃パターンは速攻、遅攻、セットプレー、こぼれという項目にわけ、得点直前のプレーとして、センタリング、ショートパス、スル

ーパス、その他に分類した。それらをもとにヨーロッパのサッカーの得点と日本のサッカーの得点にどのような違いがあるのかを分析する。

【結果】

特徴が類似するものとしては得点の入った時間帯とシュート位置があげられる。時間帯では両者ともに比較的バランスよく得点できているといえる。また、シュートの位置にも大きな差異はみられなかった。

次に得点者のタッチ数だが、日本のほうがヨーロッパよりもダイレクトシュートの割合が高いことがわかった。

得点までに要した時間は日本のほうが時間がかかっていることから、ヨーロッパのほうが速攻やカウンターをものにできていると推察できる。

得点の内訳では日本代表の公式戦では FK を 2011 年～2012 年の間、決められていないということがわかった。

得点にいたるまでのパスの本数には違いがみられた。ヨーロッパのチームは少ない本数で得点している。日本ももちろん少ない本数での得点もしているが、そのケースは少ない。

得点に至った攻撃パターンは日本のほうが断然遅攻が多かった。ヨーロッパも遅攻の割合が高いが速攻などのチャンスも有効に活用している結果となった。得点直前のプレーは両者ともにショートパスの割合が多いことがわかった。

【考察】

シュート位置に差異があまり見られないことから、ヨーロッパよりもミドルシュートを積極的に打っていくべきだと考える。また遅攻を得意とする日本は、相手が守備陣形を整えていてもしっかり崩せるプランをもっているようだ。しかし、これは裏を返せば、少人数で相手ディフェンスを崩すことが難しいということにもなる。ヨーロッパでは少人数でも相手を崩せる技術をもつ選手が見られた。そこから日本はまだ個人のスキルを磨かねばならないといえるだろう。

しかし、昔と比べて海外のビッグクラブで活躍する選手が増えてきていることから、日本のサッカー指導というのは改善すべき部分はあるものの決して間違っていないと考える。日本の得意攻撃である人数をかけた厚みのある攻撃というのをベースにミドルシュート技術や個のスキルの上達、速攻やカウンターでの得点パターンを足せば、日本は世界と比べても遜色ないサッカーレベルになると筆者は信じている。